

7. 総合製造・設備保全教育

品番	題名	時間(分)	内容	発行所
7-01	5S実践のポイント 1 5Sの進め方	15	5Sでどういう効果が得られるのか、といったことに答え、5Sの効果的な進め方を紹介。	PHP
7-02	5S実践のポイント 2 不要品はこうしてなくそう	15	不要品一掃を徹底するために、「層別管理」「発生源対策」という2つの整理のコツを中心に解説。	"
7-03	5S実践のポイント 3 探すムダを一掃しよう	15	整頓を「現状分析→物の『置き場所』を決める→保管のルールを守る」といった手順で解説。	"

総合製造・設備保全教育

品番	題 名	時間 (分)	内 容	発行所
7-04	5S実践のポイント 4 ゴミなし、汚れなしの職場を創ろう	15	清掃という実践を通して、改善へと結びつけることができます。「職場・設備の清掃」「設備5S」の進め方を紹介。	PHP
7-05	5S実践のポイント 5 衛生的な美しい環境を維持しよう	15	清掃を通して「5Sの標準化と異常の顕著化」、「目で見る管理の工夫と徹底」について解説。	"
7-06	5S実践のポイント 6 決められたことをきちんと守ろう	15	躰とは、決めた事を自然に守れるよう習慣づけすること。習慣づけるために、どういったステップで、どのように進めるかを紹介。	"
7-07	ISO9000承認取得対策 1 取得への第一歩	30	産業界で注目を集めるISO9000シリーズ。ビジネスの枠組みが大きく変化する中で、避けては通れない問題になっています。ISO9000シリーズの大系や考え方などの基礎知識から、制定の背景、日本での動向などを、わかりやすく解説します。	シュビキ
7-08	ISO9000承認取得対策 2 受審ガイド	30	ISO9000シリーズの審査登録について、準備から、受審、その後の維持管理まで、ポイントをわかりやすく解説します。受審前の重要なステップが社内教育。全社員に品質システムの意識を徹底させることが、成功への第一歩です。	"
7-09	ISO9000承認取得対策 3 品質マニュアルと内部監査	30	ISO9000シリーズの認証取得で、重要なポイントとなるのが、品質マニュアルの作成と内部監査です。認証取得の2つのキーポイントに絞って、その具体的な取り組み方を、わかりやすく解説しました。	"
7-10	ISO9000承認取得対策 4 内部監査員の育成	30	品質システムの維持、運営が要求されるISO9000シリーズの審査登録では、社内で内部監査員を育成する必要があります。内部監査員をどのように育て、どう組織していけば良いのか。そのノウハウとポイントを解説しました。	"
7-11	ISO9000承認取得対策 5 実践編1 経営者・品質システム	30	ISOの要求事項では、まず、経営者に課せられた責任と、品質システムのあるべき姿が規定されています。経営者の責任は、品質システムのあり方を、要求事項に沿って、わかりやすく解説します。	"
7-12	ISO9000承認取得対策 6 実践編2 契約・設計・文書管理	30	品質システムの全体像がつかめたら、次は、工程別に、品質システムを作ります。規定要求事項を満たすには、製造の前段階、つまり、契約、設計からカバーするシステムが必要です。この部分について、要求事項に沿って解説します。	"
7-13	ISO9000承認取得対策 7 実践編3 調達・製造	30	品質システムの構築では、部品、材料の調達段階から、製造工程までの管理体制をしっかりとさせなければいけません。調達段階から、製造工程までの品質管理のあり方を、要求事項に沿って、わかりやすく解説します。	"
7-14	ISO9000承認取得対策 8 実践編4 検査・引渡	30	製品の検査でその品質を確認するとともに、顧客に手元に届くまで、しっかりと管理しなければいけません。製造の各段階に於ける検査体制から、保管、引渡までの管理のあり方を、要求事項に沿って、わかりやすく解説します。	"

総合製造・設備保全教育

品番	題名	時間(分)	内容	発行所
7-15	ISO9000承認取得対策 9 実践編5 システムの維持・運営	30	品質システムの維持、運営にあたっては、品質記録をきっちりと保存するとともに、内部監査や、教育・訓練を実施しなければいけません。 品質記録の管理方法や、内部監査、関係スタッフのトレーニングについて、進め方のポイントをわかりやすく解説します。	シュビキ
7-16	知っておくべきPLの知識	30	事業者として避けて通れないPL。適切な対応が不可欠ですが、その為にはまず正確な知識を身につけておくことが必要です。知っておくべきポイントを、専門家がまとめました。 CG（コンピュータ・グラフィックス）を使った分かりやすい説明。法律の専門知識を、一般の方にもご理解頂けるように解説しましたので、社内教育などにもご活用頂けます。	"
7-17	実践 PL対策	30	PLは、適切な対策をしておけば、ビジネス・チャンスの拡大にもつながります。確実な対策をし、プラス効果にも結び付けるにはどうすれば良いのか、そのポイントを実務に沿って解説しました。 PLは、法律に関わる問題ですので、正確な理解が必要です。法的な専門知識がなくてもご理解頂けるように、わかりやすい解説になっていますので、社内教育などにもご活用頂けます。	"
7-18	ISO14000 取得への第一歩	30	今、地球環境問題は全世界の関心を集めています。その中で、産業界で注目されるのが、ISO14000シリーズ。 本格的にスタートした環境マネジメントシステムを中心に、審査登録のステップまでを、わかりやすく解説します。ISO14000の社内への推進にご活用下さい。	"
7-19	ISO14000 実践編1 システム構築の前に	30	環境マネジメントシステムを作るには、まず、ISO14001を十分に理解し、入念に事前調査を行って、土台を固める必要があります。 本作では、ISO14001の狙いや、用語を解説すると共に、現状分析の手順とポイントを、CGでわかりやすく解説しました。	"
7-20	ISO14000 実践編2 計画のためのシステム	30	環境マネジメントシステムは、PDCAのサイクルで構成されています。その第一段階は、環境マネジメントを計画するためのシステムです。 組織としての環境方針や目標を定め、行動計画を立てる重要なステップ。ISO14001の要求事項に沿って、取り組み方をわかりやすく解説しました。	"
7-21	ISO14000 実践編3 実施と運用のためのシステム	30	プランのためのシステムができたなら、次は、この目標を実現するためのしくみ作りです。 実施、運用では、教育・訓練、文書作成と管理といった、作業が必要です。ここで何が要求されており、どう進めるべきか、わかりやすく解説しました。	"
7-22	ISO14000 実践編4 フォローアップのためのシステム	30	実施のしくみに続いて、次は、環境マネジメントシステムをチェックし、是正するステップです。 ここでは、日常の監視・測定と、その結果に応じた是正措置、そして、定期的な内部監査等が求められます。要求事項に沿って、その進め方を解説します。	"

総合製造・設備保全教育

品番	題名	時間(分)	内容	発行所
7-23	ISO14000 実践編5 受審ガイド	30	環境マネジメントシステムが構築され、実行、維持、更新されていることを広く社会に伝えるのが、第三者による環境マネジメントシステム監査。審査登録機関の選択から、審査を受けて登録され、その更新を続けるまでのステップとポイントを解説しました。	シュビキ
7-24	PRTR実践のポイント1 化学物質の排出・移動登録制度にどう取り組むか 早わかりPRTR	25	企業の化学物質の排出量の報告を義務づける「化学物質は移出管理促進法（PRTR法）が成立し、企業は、約200種に及ぶ物質の排出量と廃棄物の移動量を国に届けることが求められるようになります。 PRTRのねらいや仕組み、そして企業に何が求められているかを、具体例を通してわかりやすく解説しています。 PART1 PRTRの目的と効果 PART2 PRTRの仕組み PART3 情報開示とリスク・コミュニケーション	PHP
7-25	PRTR実践のポイント2 化学物質の排出・移動登録制度にどう取り組むか PRTR効果的対応法	25	PRTRの実践にあたり、入り口管理や生産コストの削減をどのようにするかを、先進事例から学んでいきます。 PART1 入り口管理の実際 PART2 排出量削減への道 PART3 経営戦略に活かす	〃
7-26	早わかりHACCP	40		〃
7-27	HACCP導入のための一般的衛生管理プログラム ポイント解説 HACCP導入の前提条件	30	PART1 HACCPと一般的衛生管理プログラム PART2 一般的衛生管理プログラムの内容 PART3 HACCP、一般的管理衛生プログラム導入の考え方	〃
7-28	HACCP導入のための一般的衛生管理プログラム 事例でわかる 「GMP」製造環境の整備	30	PART1 施設・設備の衛生 PART2 機器の衛生 PART3 GMP導入の考え方	〃
7-29	HACCP導入のための一般的衛生管理プログラム 事例でわかる 「SSOP」衛生標準作業手順の整備	30	PART1 SSOPとは PART2 SSOPの実際 PART3 SSOPの注意点	〃
7-30	実践！異物混入対策 第1巻 「現場改善編」異物混入ゼロ！への挑戦	25	食品に寄せられるクレームのうち、最も多い異物混入。個々の品質管理、衛生管理レベルが端的に表れるこの問題に、食品メーカーはいかに対応していけばよいのでしょうか。現場改善からクレーム対応、再発防止まで階層、職能を問わず全社的に異物混入対策をすすめる際の教育・啓発ツールを紹介しています。	〃
7-31	実践！異物混入対策 第2巻 「クレーム対応編」お客さま対応と再発防止	25		〃
7-32	建設業の戦略経営 激動の時代を勝ち抜くために	30	業界構造の転換期にあり、激動する建設業界では、今までの経営を続けるだけでは生き残りが難しくなってきます。勝ち抜くための戦略に基づく経営（戦略経営）の手法を解説しました。戦略の立て方をCG（コンピュータ・グラフィックス）を使ってわかりやすく説明してあります。実際に戦略を立てて、さらに成長する会社を作りあげて行って下さい。	シュビキ
7-33	建設業の戦略経営（計画実践編）	30	入札制度の見直し、業界構造の変化と、激動する建設業界を勝ち抜くためには、戦略に基づく経営（戦略経営）の実践が求められます。 戦略の短期、中長期計画の落とし方から、実践面でのチェック、見直しの方法を、CG（コンピュータ・グラフィックス）を使ってわかりやすく解説しました。	〃

総合製造・設備保全教育

品番	題 名	時間 (分)	内 容	発行所
7-34	製造現場のOJT1：ドラマ編	30	日本の製造業を支えてきた現場力、その強さを維持するにはどうすればよいか。 次世代の技能技術者を育てるOJT（職場内訓練）を紹介する。	日本経済 新聞社
7-35	製造現場のOJT2：解説編	30	OJTは、とかく場当たりのになりやすい。いかに計画的に実践するかが、成功のポイント。 第1巻のドラマを振り返り、リーダーの役割や部下指導の心構えなど、成功するOJTを解説。	"